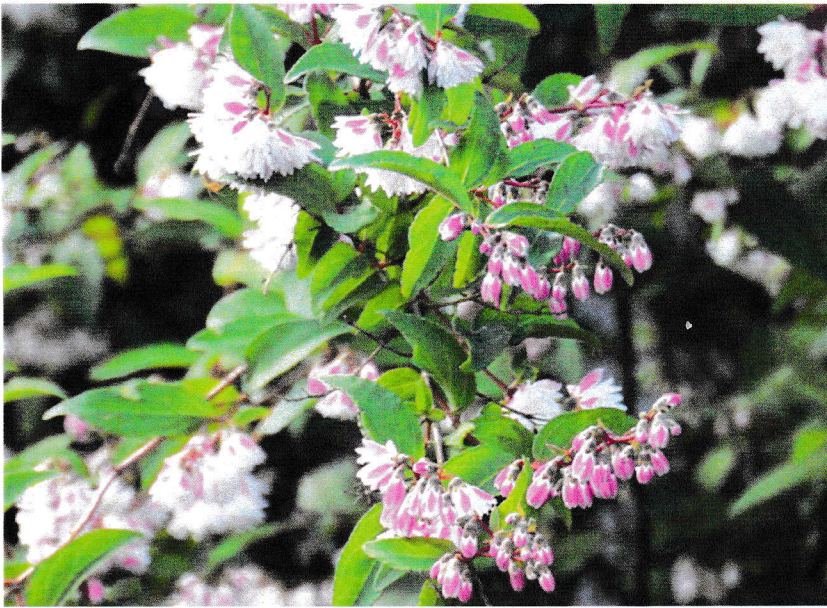


大分県 現代俳句協会 会報

第116号

令和元年5月30日



現代俳句歳時記 【卯の花】花うつぎ 山うつぎ 空木

山野に自生するが、庭などに植えられることも多い。卯月に咲くのでこう呼ばれている。幹や枝が中空なので空木(うつぎ)と呼ばれることもある。白やピンク。地に還す骨カラカラと花卵木 伊谷まがね

第29回 県現代俳句協会総会開会

2月25日(月)大分県アートプラザ研修室で第29回大分県現代俳句協会総会、および大分県現代俳句大会が開催されました。

総会では県協会の活動を内外に強めること、句会や勉強会などのサポート

れた大分県現代俳句大会では、非会員を含めた約50人が参加しました。中村和宏本部会長の特選句5句の紹介のほか、大会賞、協会賞、大分合同新聞社賞などが発表され、会場は拍手に包まれました。

内外に向けた活動を充実させ ひとりぼっちの会員をなくそう!!



トを通じて協会からひとりぼっちの会員をなくそうということが討議され、事務局提案の議案書が原案通り可決しました。

人事では田中充さん、田代直之さん、菅登貴子さんが新しく幹事に選出され、これにより幹事は合計5名になりました。

今回から再開された第21回大分県現代俳句協会賞は足立攝氏が受賞し、表彰式がありました。(2面参照)

併せて年間一句賞の表彰も行われました。(6面参照)

同日の午後開か

第21回 大分県現代俳句協会賞

足立 攝氏「不思議大好き」 奨励賞に坂田正晴氏「平和」

第28回総会決定にもとづき、平成24年以降中断されていた大分県現代俳句賞が6年ぶりに再開されました。この賞は県協会の目指す俳句の方向性を内外に示すとともに、県協会の質的向上（会員、選者とも）をはかる目的で制定されました。過去の受賞者は以下の通りです。成清正之（第1回）、瀧春樹（2）、宮川三保子（3）、吉賀三徳（4）、佐藤綾子（5）、野田嘉治（6）、有村王志（6）、井ノ口睦子（7）、伊藤利恵（8）、上田たかし（9）、川野智子（11）、白水風子（12）、芦塚美穂（13）、中山宙虫（13）、東圭子（14）、あべまさる（15）、河野則子（16）、友松照子（17）、谷川彰啓（18）、河野泉（18）

この賞の応募資格は、県協会員であること、過去に同賞を受賞していないことの二点だけです。20句一組にタイトルをつけ、作品と構成の総合点で競います。再開第一回となる今回は、締め切りの10月18日までに12組の力作がそろいました。

これらの作品を応募条件が同じになるように事務局で活字化し、別表の8人の選考委員に作者名を伏せた状態で送付しました。このうち万葉太郎顧問から、多忙と体調不良により選考委員を辞退したいとの申し出がありました。

選考は1位から5位までを5、4……1点と振り分け、その合計点で順位をつけるといふ従来の方法を改め、次の方式に変更しました。
①選考委員それぞれの持ち点を15点とする
②選考委員はその持ち点を自由に振り分ける
③ただし最高点は5点とする

その結果、別表のような選考結果を得て、有村王志選考委員長が各選考委員と電話で協議した結果、以下の通りに決定しました。

第21回大分県現代俳句協会賞

同 奨励賞

足立 攝さん

坂田 正晴さん

第21回大分県現代俳句協会賞

【受賞作品】

「不思議大好き」

足立 攝

七草やどの本能も話し中

宮城石巻眠りの浅い二月の木

恋猫の耳に濁世のかすり傷

死者生者横切つていく夏つばめ

塞がれた狂気ぼくにも目高にも

崩落を乗り越えてゆく蟻の列

にんげんの闇の深さに蜘蛛百足

落日の紅蜀葵まだ売れぬ家

鳳仙花爆ぜ正論を疑いぬ

経糸を少し緩めて秋に入る

爽やかに少年が来てナイフ買う

吾亦紅揺れたいときに風がない

海町の椅子に秋思が干してある

紅葉散るときも世界はまだ笑う

冬晴れを賢者のごとく公孫樹

冬の海何か言わねば岩になる

鮫鱈と書いてわたしとルビをふる

十二月八日の頭痛を甘受する

改札を抜けて聖夜の鳥となる

寒卵こつんと割りて人嫌い

				選 考 委 員										
順 位	応 募 番 号	タ イ ト ル	作 者	有村王 志	成清正 之	河野輝 暉	万葉太 郎	谷川彰 啓	あべま さる	上田た かし	白水風 子	合 計 点	賞	
1	4	不思議大好き	足立 攝	5	4	4	-	3	5	5	4	30	・協会賞	
2	11	平和	坂田 正晴	4	3		-	1	4	3	1	16	・奨励賞	
3	2	鼻の穴	菅 攝子			5	-		2	1	3	11		
3	6	時時の今	灘波 瑞枝		2		-	4			5	11		
3	8	青五月	瀬川 剛一	2	5	3	-		1			11		
6	9	赤蜻蛉	田代 直之			2	-	3		2	2	9		
7	10	水門	御手洗豊海		1		-	4	3			8		
8	1	痕跡	吾 亦 紅			1	-			4		5		
9	12	水	かみのみずほ	4			-					4		

【受賞の言葉】

記念すべき再開第一回の協会賞を

足立 攝

受賞できて、うれしく思っています。

気分的には初心者のつもりでしたが、



各選考委員の講評

いつの間にか俳句を始めて14年もたつてしまいました。母が亡くなったあと、父と向き合うためには共通の趣味があった方がいいと思い、ほんの腰掛けのつもりで始めた俳句でした。しかし尊敬する諸先輩方と楽しく過ごしている間に、次第にその奥深さに魅了されてきました。一から手ほどきをしてくださった成清正之先生に深く感謝しています。

先輩たちが守ってきた賞に恥じないように、また県協会の発展のために、これからも及ばずながら力を尽くしていきたいと思っています。

順不同で到着順に掲載しました。文中にある作者名は、編集部で追加したものです。

死者生者横切っていく夏つばめ
吾亦紅揺れたいときに風がない
海町の椅子に秋思が干してある
冬の海何可言わねば岩となる
配点は五点

選考委員長 有村王志

二位 水 かみのみずほ

六年振りの協会賞に十二名の応募がありました。年間作品を二十句揃えることは大変なことで、各位の熱意に緊張感を持って句群を熟読。再考に再考を重ねて、以下のとおり作品を選出。

一位 不思議大好き 足立 攝

多様な素材と時事句を含めて鮮やかな切口の句群で、立ち位置が明確なところ十分。

宮城石巻眠りの浅い二月の木

静謐なしつかりとした言葉の選択があり、一位と殆ど遜色はないが、描写句が混じっているところで二位とした。

うすらひは水がしだいに脱げたもの
万緑の脱皮している水の音
滝落ちて水ととのへる流れかな
引くときに己みえるか土用波
配点は四点

二位 平和

坂田 正晴

全体に安定して読める。形象化による自己表出が確立している。しか

し、内的にややその説得力の弱さがみえるところで二位とした。

春雨や紙人形の紙になる
しずかさの中のしずかさ蟻集まる
家中に昭和が歩いている八月
縄電車どこに降りても大花野
配点は四点。

四位 青五月 瀬川 剛一

作者の持ち味の出た句として注目したが、持ち点十五点という配点上の観点から、次回に期待したい。はつ夏のなにもかも吊る荒物屋直感のたとえば認知症の夏
配点は一点。

選考委員 成清正之

県俳壇の指針とも言うべき協会賞の復活は会員の当面の努力目標にもなり、よろこばしいことである。

何よりも執行部の新しい「選考」にあたっての合議制は、全国的に類のない画期的なものが取り入れられており、大きな話題を呼ぶことになると思われる。

《新しい俳句を求めて「奇」を狙う人もいるが、自分の心の中にある「新しいことば」を活かすのが俳句

だ……》(飴山実)を念じて選考に当たった。応募作品にはそれぞれの個性がよく活かされて、純度の高い作品に感動して順位は苦渋の選択であった。

一位 青五月 瀬川 剛一

牛一頭ふやし父立つ青五月
青葉光少年われに即答す

もうすでに大海をみる夏つばめ
純度の高い作品で、生の実感に即しつつ独自の視点を活かしている。表記に力強さがある。配点5点。

二位 不思議大好き 足立 攝

爽やかに少年が来てナイフ買う
冬晴れを賢者のごとく公孫樹
鮫鰐と書いてわたしとルビをふる
自在な発想・表記がよく活かされている。抑制された表現で、平明な句にしている。配点4点。

三位 平和 坂田 正晴

青空が一番好きな裸の子
川の上に夏雲動くとき平和
九条をこわさぬように星まつる

感動や発見の喜びがよく伝わる。自在にイメージを構築し実景以上の景を表現している。配点3点。

四位 時時の今 難波 瑞枝

子が發ちて花の風に揺れている
げんげ田の記憶をつなぐ父祖の里

自分を客観視し、心情をよく記述
している。配点2点。

五位 水門 御手洗豊海

迷いなし天にまっすぐ今年竹
後もどりできぬ人生冬田打つ

緻密な句作りをしている。発想の
自在さが少し欲しかった。配点1点。

選考委員 上田たかし

一位 不思議大好き 足立 攝

「不思議大好き」を第一位に選ん
だ。四季の移ろいの中にあつて、常
に何かを発信しようという強い意思
が見られる。構成もすばらしく、全
ての句が読者の心を捉えて離さない。
二十句はどれも甲乙をつけ難い。そ
の中でも次の句が印象に残った。

七草やどの本能も話し中

宮城石巻眠りの浅い二月の木

海町の椅子に秋思が干してある

冬の海何か言わねば岩になる

(配点5点)

二位 痕跡

吾亦紅

第二位に「痕跡」を選んだ。すぐれ

た感性と洗練された表現で、作者の
意図しているものがうまく述べられ
共感した。次の句が心に残る。

マネキンの今日を素足で立っている
夏の蝶乱数表で飛び回る

手鏡に九月の貌を写し取る

(配点4点)

三位 平和

坂田 正晴

第三位に「平和」を推したい。表

記に無理がなく好感の持てる句が多
く見られる。やさしい表現の中にも
平和の尊さも訴える力がある。次の
句に惹かれた。

春雨や紙人形の紙になる

川の上に夏雲動くとき平和

縄跳びの縄ナガサキの日を掬う

(配点3点)

四位 赤蜻蛉

田代 直之

第四位に「赤蜻蛉」を選んだ。作
者の意図する方向と、構成にややム
ラがあると思われる。骨太の句には、
魅力があり、人を惹きつける力があ
る。次の句が印象深い。

迂回する人生もよし蝸牛

コンパスの中心にある原爆忌

曼珠沙華ころの傷へ飛び火する

(配点2点)

五位 鼻の穴

菅 攝子

第五位に「鼻の穴」を選んだ。平易
な表現に好感がもてた。大地に足を

着け、右往左往しない句が魅力的で
ある。二十句中ややバラツキがある。
次の句が光る。

パレットの中に夕虹持ち帰る
五千歩と決めて故郷の春を踏み
豌豆の明るさにいる立ち話

(配点1点)

選考委員

白水風子

十二名の応募作品の中から五位ま
でランクを付けての選考をする事にな
り、不安の中にもどんな俳句と出
合えるか楽しみでもある。

一位 時時の今

難波 瑞枝

配点5点

時時の今を生ぎんと冬耕す
身の丈に暮らし二人の屠蘇を酌む
蕨摘み一日は夫と野に遊ぶ
着膨れて誇れるものもなく自由
子が發ちて花野の風に揺れている

二位 不思議大好き

足立 攝

配点4点

経糸を少し緩めて秋に入る

爽やかに少年が来てナイフ買う

冬の海何か言わねば岩になる

鯨鯨と書いてわたしとルビをふる

三位 鼻の穴

菅 攝子

配点3点

鼻の穴とつぷり暮れる秋の空
冬蝶のほろりと風になりにけり
初鯉空をたぐれば父の唄

四位 赤蜻蛉

田代 直之

配点2点

薫風やプラス思考へ舵を切る
コンパスの中心にある原爆忌

五位 平和

坂田 正晴

青空を見ているだけの原爆忌

配点1点

以上自分なりに選考させてもらっ
た。私自身が伝統俳句を叩き込まれ
ているので、大変苦労をしての選考
だった。

1位の「時時の今」は作品全体と
して、ぶれの無い句が揃っていた。
家族の歴史や、情景を無理なく受け
止めることが出来、まるで映像を見
ているようだった。二十句がしっか
り纏まっているので1位に選んだ。

2位の「不思議大好き」は若い人の
作品かな?と思いつつ鑑賞をした。
私が一番心惹かれたのは「経糸を少
し緩めて秋に入る」だった。機織り
の景が浮かぶが、私はこの句はある
種擬人法だと思った。人体は経糸と
横糸で出来ていると思えば、こんな
楽しい事は無い。

この先は読者に任せよう。タイトルの「不思議大好き」が語るように、機知に富んだ句や、難解句も有るが全体的に纏まっている。

3位「鼻の穴」は特に「冬蝶のほろりと風になりけり」に惹かれた。季語の「冬蝶」がいい。他の季語は抒情が沸かないと思う。

4位「赤蜻蛉」「薫風やプラス思考へ舵を切る」薫風や、の切れが効いている。俳句は切れ字「や、けり」で俳句の幅を広げよう。

5位「平和」「青空を見ているだけの原爆忌」掲句の内容は深いですね。この淡々とした表現が胸を打つ。沢山の佳句に出合ったのに、思うことが書けずに反省している。

選考委員

あべまろ

一位 不思議大好き 足立 攝
七草やどの本能も話し中

塞がれた狂気ほくにも目高にも
海町の椅子に秋思が干してある
鯨鯨と書いてわたしとルビをふる
寒卵こつんと割りて人嫌い

独創的で诗情豊かな安定感があった。焦点の絞り方が絶妙で、二十句のバランスも良い。自由さのあるタ

イトルにも注目した。全体的に飾り気のないところが印象に残った。配点は5点。

二位 平和 坂田 正晴
春雨や紙人形の紙になる
家中に昭和が歩いている八月

青空を見ているだけの原爆忌
縄電車どこに降りても大花野
一句一句を揺るぎなく纏めてある。

未来の平和を願っている気持ちと言
い得て、作者の人生観が目に浮かぶ。
配点は4点。

三位 水門

御手洗豊海

今日を生き明日ありやなし種をまく
戒名は無用花野の風となる
墓洗う戦なき世の盆の月

天の風吹くまで待とう冬の蝶

季語がよく効いて取り合せが良い。
無心な句を伸び伸びとした言葉で思
いをよく現している。配点は3点。

四位 鼻の穴

菅 攝子

鼻の穴とつぷり暮れる秋の空
パレットの中に夕虹持ち帰る
日焼田に骨身をこぼしゆく男

「俳句とは喜び」を実践している
様子が窺えて楽しい句が多い。面白
さが一定の安定感を示し、成功して

いる。配点は2点。

五位 青五月

瀬川 剛一

春ひとり人を畏れてひとを恋う
ニッポンの蛭しずかに毀されて
あと三年もう三年と梯梧燃ゆ

既成概念にこだわらず作句するい
い意味での独自性があった生活感が
伝わってくる。特に「あと三年もう
三年と梯梧燃ゆ」の句が好きで評価
したい。配点は1点

選考委員

河野輝暉

《咄嗟に決めた上位》

一位に「鼻の穴」(菅攝子)を推
す。(5点)

古梅酒臍へ月日の山河濃し

鼻の穴とつぷり暮れる秋の空

日常の美ではなく、美の中に日常
を組み込んでいく作者の生き甲斐は
羨ましい。

一句中に取り合わせの衝撃も抑制
され、余情が深い。例えば次の三句
春燈に女坐れば罪のごと
日焼田に骨身をこぼしゆく男

種時ぐや鳥語の中に還りゆく
豊かな自然美の中の、日常の点描
が発見へ。

豌豆の明るさにいる立ち話
掌の中の愁いはひとつ柿日和
全体的にデジャブーに無縁で安心
して評価。

二位に「不思議大好き」(足立攝)
が好きになる。(4点)

海町の椅子に秋思が干してある
鯨鯨と書いてわたしとルビをふる
十二月八日の頭痛を甘受する

右の様に独自性が強く、近代的憂
愁が反映されている。だが十分納得
のいく叙情がある。次は心理の曲折
が諧謔的な妙味がある。

吾亦紅揺れたいときに風がない
寒卵こつんと割りて人嫌い

もう「にんげん」の表記には飽い
た。県現俳句協会賞に価する作者が
底をついて中止したのは意味ある事
であつたと思う。今回多くの方々
出品し大方のレベルも想定でき有意
義だつた。意欲は目標のある所に。

三位 「青五月」 瀬川剛一 (3点)

四位 「赤蜻蛉」 田代直之 (2点)

五位 「痕跡」 吾亦紅 (1点)

選考委員

谷川彰啓

現代俳句の表記は多岐にわたる。
選考にあたっては、内容に従来の古

さがなく今日性を加味した意欲的で新しい試みが少しでも感じられる作品を対象に、十二編の応募作品の中から七編を選び、更に言葉にリアリティのある作品を次記のように五編にしぼった。

一位 水門

御手洗豊海

配点4点

水門をあけて飛び散る春のおと

戒名は無用花野の風となる

迷いなし天にまっすぐ今年竹

土用波はるか沖見る龍馬の目

後もどり出来ぬ人生冬田打つ

一位 時時の今

灘波 瑞枝

配点4点

さらさらと生きる明日の根深汁

生涯に癒えぬ悔あり花は葉に

着ぶくれて誇れるものもなく自由

げんげ田の記憶をつなぐ父祖の里

八月や水を欲する死者の霊

三位 赤蜻蛉

田代 直之

配点3点

一陣の風の連れ去る花のいろ

迂回する人生もよし蝸牛

少しだけ父の臭いの草いきれ

曼珠沙華こころの傷へ飛び火する

三位 不思議大好き

足立 攝

配点3点

宮城石巻眼りの浅い二月の木

死者生者横切つてゆく夏つばめ

冬の海何か言わねば石になる

五位 平和

坂田 正晴

配点1点

家中に昭和が歩いている八月

九条をこわさぬように星まつる

縄電車どこに降りても大花野

平成30年度《年間一句賞》

● 有村王志 推薦

一年間の結実した各位の作品を詠むと今回は一句に絞るのが困難なほどの多様な作品群があり、その選出

頻尿の寒や廁へ老いにいく

河野 輝暉

掲句は、第一回の雑誌作品鑑賞でも取り上げたが、頻尿と老いという

日常を素材として老境にある者の心境が伝わってくる。下五の老いに行くとという措辞に独我がある。夜中に廁へ向う黒々とかつ寒々とした少し前傾の姿などを想起。この己自身の独白・実像、その実感に触れて人生の哀感が伝わってくる。

● 成清正之 推薦

この一年間の大きな出来事にも視点が向けられ、日常の些細なことにも関心が持たれて県の現代俳句は本当に生き生きと、ものの真実を捉えようと懸命になっている姿が見えて多くの作品に深い感動を覚えました。今回は

ほうやれほう兜太応えぬ春の山

有村 王志

を推挙します。「ほうやれほう」は

兜太の代表作品からの引用で、亡き

師を思う切実な心情が伝わる訴求力

のある作品だと感動しました。

その他次の作品にも作者の思いが

よく纏められて、立派な自己主張の

成句だと思いました。

村を出て途方に暮れる鬼やんま

足立 攝

誰も言はぬからいはいでおく暑さかな
白水 風子

三代のサインは「ピース」七五三

田中 充

鬼灯へ宿りし昭和の風匂ふ

谷川 彰啓

草茂る限界集落田を捨てる

灘波 瑞枝

避難所や忍の一字の熱帯夜

羽立みちこ

シベリヤを語らず海鼠嘔む翁

宮川三保子

● 河野輝暉 推薦

また生きて具象で過ぐす三が日

あべまさる

「めでたさも中くらいなりおらが春」「百歳の何がめでたい」などとも言う。賀正や敬老を裏から意表を

ついて、実態を暴露したものだ。

永い間、正月や長寿はおめでたい

ものとして社会的に概念化され、祝

う事を強制化さえされてきた。

三が日に当って来し旧年を振り返つ

てみる。いい事ばかりではなかった。

経済的、憂き世の付き合ひ、家庭内

外の言い事など具象的な不快事があつ

た。やっと乗り越えたと思つたら、

再びそんな生活が今年もスタートす
るのか。めでたさ、幸福論は抽象的。
対して不幸論は百態あつて具体的。

落語のネタは後者の方が多いのも
具象で分かり易く大衆にひねりが共
鳴するからだろう。

上五は、再出発の意気込みでは諧
謔の意味はない。「具象です」す
の表現の深さを想う。

● 谷川彰啓 推薦

葉牡丹や村は崩れてゆく途中

上田たかし

少子高齢化による人口減少は、特
に農村部にその傾向が強く過疎化の
波はとどまる所を知らない。「村は
崩れてゆく途中」の厳しい現実への
哀感を葉牡丹に託して農村の現状を
重く受けとめた作品。

葉牡丹の花の美しさとの対比で切
実感が一層身に沁む。

以下優劣つけがたい候補にあげた
作品を列記しておく。

頻尿の寒や廁へ老いにく

河野 輝暉

蝉しぐれ誰も帰らぬ無人駅

有村 王志

鬼灯を鳴らし少女を脱ぎ捨てる

足立 攝

終生の地と決めた日や沙羅の花

宮川三保子

● 万葉太郎 推薦

梟や国の崩るる嘘がある

灘波瑞枝

国によつて繰り返された公文書の
改さんは隠蔽の責任をそのままに第
4次改造内閣に主要大臣を留任させ
た。この国の嘘はあの太平洋戦争で
みると、戦没者の六割は餓死者であ
ることが、今年文庫本で再刊された
『餓死した英霊たち』（藤原彰）に
詳しい。

これは大本宮が発表してきた嘘の
内容からの大悲劇である。私の兄は

6月9日(日)九州俳句大会 in 大分

県協会が後援 於・センチユリーホテル

会報百十五号でもお知らせした通
り、九州俳句大会が6月8日、9日
の二日間大分センチユリーホテルで
開催されます。この大会は九州俳句
作家協会が毎年持ち回りで九州各県
で開いているもので、今年は大分県
が当番県でした。県協会はこの大会
を後援しています。大分大会の大会
会長は有村王志さん、事務局長は
谷川彰啓さんです。

大会の成功は何と言っても、いか

この大本宮の嘘によつて硫黄島から
ついに還つては来れないままである。
昨年の2月に亡くなった金子兜太
氏は国の嘘について「アベ政治を許
さない」と墨書し、これは全国で活
用されている。この句は上五に取り
合わせの語として「梟や」と詠み冬
の夜に鳴く奇妙な含み声は適切な表
現としてかつ鋭い。

またある歳時記によれば、「梟や」
について「最近は留鳥で、四季を問
わなくなつて居る」と記されている
がこの句では冬の句として鑑賞した
い。作者の句作力に学びたい。

みる投句数が増えました。一日
に郵便の束が50通届くという、生涯
で初めての経験をしました。やはり
持つべきは、そして頼るべきは俳句
の仲間だと、胸が熱くなりました。
惜しみなく協力をしてくださったす
べての会員の方に心からお礼を申し
上げます。ありがとうございました。
おかげさまで目標を超過達成して、
一般の部千五百七十句が集まりまし
た。お一人で十句以上の投句を寄せ
てくださった方もたくさんいました。
集計してみますと、大分県からの投
句が六百三十句。全体の中の40パー
セントを超えています。自県からの
投句割合がこんなに高いことはかつ
てないことで、大分県の会員がいかに
頑張ってくれたかが数字の上から
も良く分かります。

現在は58人の選考委員の選句集計
も終わり、応募作品集の編集や、賞
状の印刷(巨三枚)、盾や記念品の
手配に忙しく動き回っています。

投句に協力くださった方々に恩返
しする意味でも、投句数に応じた内
容の濃い大会にしたいと思っています。

6月8日(土)は総会と懇親会です
が、九州俳句協会の会員以外でも参
加できます。9日(日)の大会と同様、
多くの方の出席をお願いします。

「新県公員紹介」

陣野 千恵子（豊後大野）

虎杖の花を濡らして友の葬

児玉 利子（豊後大野）

街道を語り終えずに菜の花忌

由布 晃（竹田）

岡城の石垣崩す猫の夫

瀬立 俊一（大分）

大寒の水また今日を生き返り

平田千代子（大分）

大根を漬けて女の日が終わる

神 慶子（大分）

街に出て初蝶青い風になる

小野 道山（大分）

稲妻や岩場を攀ずる修験僧

西峯 峰子（中津）

諭吉座す土蔵の窓や薄暑光

《重要》第1回俳詠句会 募集

昨年12月発行の句会報第3号でお知らせした俳詠句会の投句が、九州俳句大会等で忙しかったせい、合計13名と通常の半数にも及びません。それで締切を6月末日まで延期します。三句をハガキかFAX、メール等で編集部まで。すでに投句された方はこの限りではありません。

河野輝暉さん、全国誌に

当協会顧問の河野輝暉さんは、俳句総合誌である「俳句界」五月号の「新作巻頭3句」ページに、本人の経歴とともに掲載されました。

豆飯や背後にひそとミサイル飛び
万緑や訃報は生き生きとめぐる
郭公の囀せば尿意うつくしき

句会探訪④

国東市 国東俳句会

国東俳句会には国東市周辺の俳句愛好家が集結しています。指導は大分県現代俳句協会顧問の河野輝暉氏。氏が大分合同新聞俳句欄の選者だったところから続いている伝統ある俳句会です。



基礎から修辭上の上級技術まで学べますが、何より大切なのは「商品として小ぎらいに洗われた野菜より、少しくらい泥が残っている、実質本位の野菜が魅力的」と思える、その野太い実感を

迎え、成功裏に終えました。（このコーナーの原稿を募集しています。取材にも伺います）

写真は四月五日の桜見句会のもので、花曇りの中、割石地藏尊で吟行・作句し、近くの料理屋で句会と昼食会をしました。

●第34回大分県同読者文芸コンクールにおいて、菅攝子さんが《谷川彰啓選》の第三席に入賞しました。

ポストより蝶の生まれる日の故郷

《発展基金寄付五月一日現在》

・匿名希望氏 二口
・白水 風子氏 三口

力を身につけること」だと、指導の輝暉氏は語ります。

句会は毎月第一金曜日、午前十時から正午まで国東中央公民館で開催されます。行事は一月に新年俳句会・懇親会、春に吟行句会、秋に町内の文化祭に参加します。いま新入会員を募集しています。

●当協会、元副会長の佐藤綾子さんはリハビリ療養中でしたが、娘さんのいる東京に転居されました。娘さんから報告がありました。

・伊藤 利恵氏 四口
・上田たかし氏 三口
・谷川 彰啓氏 二口

令和元年5月30日発行
会報第百十六号
発行人・有村 王志
発行所・大分県現代俳句協会
編集人・足立 攝



大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志

《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436
足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL: <https://blogs.yahoo.co.jp/nakamusi5011>

E-Mail: info@e-ada.net